



なは市民協働大学だより



第1回&第2回合併号

発行月：令和元年7月
 発行：那覇市まちづくり協働推進課
 なは市民活動支援センター
 〒900-0004 那覇市銘苅 2-3-1
 なは市民協働プラザ 2階
 TEL:098-861-5024 FAX:098-861-5029

令和元年度

なは市民協働大学ご入学おめでとうございます



はいたい！受講生のみなさま、こんにちは。第1回目&第2回目の講座、大変おつかれさまでした。初回は、どんなことをするのだろう、どんな仲間がいるんだろう…ドキドキ。入学式では、ちょっとしたハプニングによりプログラムが変更になり、更にドキドキ！！

。。事務局はチムどんどん《心臓がドドキ》！アティ〜アティ〜《大慌て》汗。。

受講生の皆さんを驚かせてしまい、失礼しました。

皆さんからの感想には、「今日の出会いを大切に！！これからの活動が楽しみです」「那覇の知らなかった事をいっぱい知る事が出来て本当に良かった」「友達をつくり増やすぞ！街でPRします」などの嬉しいコメントが多数ありました。事務局も新体制で、今年度の大学のプログラムを楽しみながら、皆さんと一緒に進めていくことにワクワクしています。

初回ということもあり、いろいろな所属・年代の方々とお話ししやすいよう、グループ編成や会場内の雰囲気づくりを行い、インタビューゲームを通して、お互いを知る！という受講生間の交流の場を設けました。嬉しいことにインタビューゲームがかなりの盛り上がり！各グループから笑顔があふれていました♪

協働大使の大城敏雄さんよりお花の提供、聴講生の伊佐千代美さんよりパンの差入れがあり、楽しいひと時となりました。ありがとうございます。



●第1回講座の振り返り

◎令和元年6月25日(火)19:00-21:00

なは市民協働プラザ2階会議室①

◎受講者：37名(全45名中)

聴講生：4名



◎概要：座学の前半は、城間幹子学長から協働に対する思いについての講話でした。「地域に何かお手伝いがしたいから応募した」と言う多くの皆さんの思いが学長の心に響いたようで、熱く語っていらっしかったです。

後半は、まちづくり協働推進課又吉弘課長から「協働・共同・協同」の意味の違いの説明があり、協働とは、異なる立場の人々が同じ目的・目標に向かって、それぞれの特性を生かして役割分担することと学びました。那覇市の人口や自治会の現状などを踏まえ、ひとりひとりが「できる事を、できる時に、できる量を行動する」という言葉が印象的でした☆

プログラム

〔入学式〕

1. オリエンテーション
～グランドルール～
2. インタビューゲーム(他己紹介)
グループ内発表
3. 学長あいさつ
4. 学長とゆんたくタイム
5. 本大学の目的と協働の趣旨
本市が推進する協働によるまちづくりについて(まちづくり協働推進課長)
6. 今日の振り返り
7. 事務局からのお知らせ

●第2回講座の振り返り

プログラム

[子どもの居場所と地域づくり]

1. 子どもの貧困問題とその対策（保護管理課）
2. 子どもと地域をつなぐサポーター系が考える居場所づくり
3. 山城塾が考える居場所づくり
4. グループによる質問づくりワーク
 - ・講話の感想をグループで共有
 - ・講師に共通の質問をグループで決める
5. 各グループからの質問についての三者対談
6. 事務局からのお知らせ

◎令和元年7月2日(火)19:00-21:00

なは市民協働プラザ2階会議室①

◎受講者：34名（全45名中） 聴講生：4名

◎概要：「子どもの居場所と地域づくり」

多くの受講生が、受講するきっかけとして
今回のテーマに多く関心を寄せていました。



山城副参事、城間さん、山城塾長



★保護管理課（山城忠信副参事）より

子どもの貧困問題として、①経済的貧困 ②社会的貧困(子どもの孤立化)
③文化的貧困（経済的貧困、社会的貧困により、一般的な生活習慣等が極端に
偏った状態。昼夜逆転、若年出産等）の3つの貧困が挙げられ、本来なら子ども
もが受けられるべき権利や機会が与えられていない、奪われている状態の事
です。

その対策として、①支援員の配置事業 ②居場所づくり事業 ③市民主体の
子どもの貧困対策事業に取り組んでいます。

那覇市が「子どもの居場所」に期待しているのは、貧困世帯の子ども達のお腹
を満たしてあげることだけではなく、孤立している子どもが苦しさを吐き出した
り、なんとなくボーっとしたり、甘えたり、安心できる場所として機能してほし
いとお話しされました。

★那覇市社協 子どもと地域をつなぐサポート支援センター系 城間えり子さんより

子どもの貧困対策のために、子ども食堂や学習支援等の活動をしている団体
に対して、人的支援や、物的支援を行っています。支援団体等の実態を把握し、
課題解決のためのコーディネート、関係団体のネットワークづくりによりサポー

トを行っています。那覇市の補助を受けている子どもの居場所が15ヶ所あり、自主開催の居場所も15ヶ所あります。

全国の子ども食堂の数は1年で1.6倍、現在では3,718ヶ所もあり、小学校区に対する子ども食堂の充足率は、沖縄県60.5%で全国一とのこと。子ども食堂の担い手は多様で、公民館・保育園・食堂・個人宅・居酒屋・古本屋など様々あります。

一人でも信頼できる大人（理解者）と出会えることができれば、その子による変化と自信（幸せ）をもたらす、とのことで「かわいそうな子どもを助けてあげる」ではなく、「沖縄の未来を担う子ども達を育てる活動」をしましょう、とお話しされました。



★山城塾（無料塾）山城勝秀塾長より

小学校の教員を退職され、民生委員にもなった山城さんが無料学習塾を立ち上げたきっかけは、那覇市社会福祉協議会に行き、学校になじめない子ども達の役に立ちたいと相談したのが始まりでした。「糸」の城間さんが社会福祉法人「そてつの会」さんにつないでくれ、そこで平成29年度から無料の学習塾を始めました。火・木曜日の夜、支援の必要な子どもたちを含め約10人の子が利用しています。学習指導や軽食の提供、クリスマスのイベントなどを行っています。とても嬉しい事として、通塾している生徒が学校に通えるようになったり、高校に入学できたり、卒業しても顔を出してくれたり、と子どもが変わっていく姿を見ること。退職教員などのボランティアの先生方や軽食やパソコンの提供など、様々な地域の方々の善意に支えられています。民間の助成金を活用して、教材やプリンターの備品も揃えました。

山城塾長は、教育で貧困を絶つ信念がある、逆境を克服する生き方を学ばせる事が大事、ボランティアだけの力だけでなく、行政の仕組みとしても必要などとお話しされました。

☆受講生からの声（抜粋）

- ・3つの貧困のなかでも経済的貧困にこそ焦点を当てるべきではないか。
- ・子ども達がどこで塾のことや子ども食堂のことを知ることができるのでしょうか。
- ・子ども「だけ」を縦割りするのではなく、地域密着で大人（高齢者）も子どもも一緒に居場所づくりがいいと思います。





★事務局より★

第2回講座で講師に対し受講生から多くの質問をいただきましたので、今後それらについて考える自主ゼミの開催を予定しています。

前回参加できなかった受講生には、お渡しできるようにその資料を準備しています。また、多くの受講生とお知り合いになり、大学を楽しんでいただく為に、毎回グループの構成員を変えています。ですので毎日が新鮮！お気兼ねなくお越しください。次回以降も多くの受講生が参加できるようお待ちしております♪

次回(第3回)講座ご案内

日時：令和元年7月30日(火)

19:00～21:00

場所：なは市民協働プラザ2階
会議室①

テーマ：最後まで那覇で幸せに暮らせる
仕組みを考える

(松川共同住宅自治会 移動
販売の取り組み)